勤惣書抜

貳

紙九十枚

へ13
3378
1

ヘ13
3378
1

蔵

茶磯榮

報恩寺伝巻之一

目録

一 和泉屋久右衛門店舗繁昌の事

附姫切秀り事

一 小霞法六切秀り慕の事

附和泉屋千代島もう事

一 法六高七に切秀り仇人の捉切伝の事

附高七歌仙をもて帰る事

大正十年八月廿九日
本大學出版部贈

一 島七如秀より奏を屈る事
一 法六捕を切如秀方に送る事
一 島七立ちを幸恢と如秀より尺る事

報恩寺法巻之一

和泉屋久左衛門庄兵衛の事
附り娘如秀の事

近頃の世の利潤さもしい人は吸ら尺
神明の罰を蒙りたもうもいろく
横死をかし一命を未世より殘る的者
さもしいへども先一旦の利欲まるを
みて後の災をうらまるる

人欲の私まして、もとの心のごとくさらい
仏の戒おも毒語戒といまし先のよ一言
八百生を養ハ元亨釈書
形おし　帰旦のもとなる
炉恒のきぼ形よつかのまをそなとも
亡し人の子を殺戮せるとい告
悪縁のよろ仏まして神明仏陀
生くいのよろ必ずしなる元縁の

所はおひや武陽江戸なる迄まる徳ある
所人ハ商賣ハ長崎ハ居宅もま
家屋敷大ケ和出人の出家人多く
商ひ日〳〵繁昌し凡ハ河こ水
よぎ月ひ隅も知ざるもの多家
おく〳〵ハよろこの民一人の娘より
屋を相売して志とし いざよ月の部
もせうるわし 宮新見舞ま

玉脂面花も切りてをとこ小四位衣通姫
姿をの〳〵見るに髪を結びさかりの色の
常なる風情丹花の唇花蕾の眉微
天のあせる玉色地よりあらはる美顔えん
人をうゝかり人情少し人も通ら
ざるなし情をあらはす伏りまつけ
手水の参宮をあらはしいとゞもらく色
ゝ踊りかうこの肩を出す思ふ民
してたれかのくべきと相ひし人とあり乱れ
いりあるる事のやうもあるまじ婦人の
行ちらるのこゝかりりや文殊さるの
次のたくしの海の浦の浦の浦
人もあるやと思ふまとてもあり安
踊りの原子をかるさもあり玄のうへの原
おとあき清方の出産をあるとて警告相
まるべあり相ありあるる海の和るまを

出羽国より飛してすぐに中ゟ
家ゟ一そくを尋る
清孫ゟ少養ゟ婚しくを
月まつりの入れの儀
しばらく初免ゟの秀医ゟ孫も
中〳〵地下の姫いとんや清盛を家ゟなま
都方の姫ゟ中〳〵高家の姫ゟど
ゟ尋る所ゟ両親ゟ家のゟ人
姫の中ゟ所ゟ公家の姫ゟのゟく
育つゟ生涯ゟ宗盛ゟ命ゟ
道ゟりゟ及ゟ所ゟ篠ゟ
して知ゟるゟ
聚ゟいゟ多ゟ
小兵衛ゟ知秀ゟ高書の事
所和泉ゟ代ゟ
己を知りを人を

笑ふ所にて己れを知りて人と知れてはやし
しきるかーーとの世のいのちーーめあれども
人こゝ皆己れを知れば知れしてはゞ恨むもまぎ
をうつこと世の離れの品ひ隔くして永
を己ーーー人をさそふもまゝ見さしとあり
を法師の玉方をよるを大家の土よ小家法師
いと人の犬を代ゝ家老の家師をして
別当時勤役ーー食帰沢山高屋を飯
ーーて小家平阪家ここ有る農民を八ゝ家
ここて家無かり次男を別出の法師を新屋
住おり百姓をうて出を留る石出れ勤仕
新又和泉屋久兵衛を法用を遣ーー新
ちのゝ出を別ーー法六方へも方へ来りるる
門の付法六和泉屋来り打節相撲相
手子出て底をを底をを底をを底をを底をを
思ひそを美美まもまを家の乃も

[illegible]

[illegible]

[illegible]

所たもとゝ[illegible]をあれる

初の日和[illegible]たもとゝ[illegible]用るゆゑて

平りゐる平治[illegible]を地[illegible]て[illegible]

[illegible]を[illegible]

海[illegible]へ[illegible]

[illegible]

四方山の[illegible]

而で[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中[illegible]

いはざ家に清き夢枕よん月の昌しやきら
よ家て雨くるよりはくるおと家ハはるかも
山のおとくあ世とも いのあるまきのやまよさく
ちこびやまて西よりあはてしてせーるハ
ゆうてあーとやまれを海たみやまありを
秋出んよちくと見しよりのくを中くはるを
ちづかあくいあを
かよりの面神まを月のはるを沢

和ーあれども いのあの国果まやを伏の月
よつくて孫てを養紀てをそうを海はぼう
の古き家のをく苦しき月日を送るあ刈
りをを月をのをあるも実を成るを語ら
すくに只のありしやあれを九七ゆて
新の場くあるれるちれを母乗
出方持ゆすぐ男をいのようても抜あぐ
出源づくやあ物ようくさ世ゆ

をそつて中よりぐしと中なれを法六ちきよ
恢びのはる調ひあむむ謝礼としてを重
平あきたくしと中あれをたもちきよ恢び
おくさみくとさ思ひあるかべしと中まを
法六そちよりこのまを和そのし墨すう
あのし除くはひ除くしかとくぐき
ひあくくさ伝くをたもと長しあれを
たもくあくく懐中しきさ一枝とくこ八し

たもを面をを正ちあれを法六たもう後
を略しはのをを恢びたもはのしたを
たもはを秀よみを屈る事
物たもを欲ふをを法六あををあるく
者を正ちをすうはくく考ふ人凡のよ
形一ちきあるこ節あり眼をちきく泉を
ひしはいぐちをを正ちきく庵底のはと
秀あもかく地をれはして色黒く人よ

も殺生一切堅かりいくたらう知れず魚
のめーも是おじの家を切り自ら
為の〜はる網を無き事あせーめらる事
いのせんし家の居者から出て知恵者
すて人殺の伴るゆりて者門法〜ちをり
み行相撲をは相と風邪して者は陶屋
部屋より一人家の出ぬ〜屋ちも
能き同部おり〜候び法云ら多を打て
相撲ら例より屋を出て出能はまて いびをて
相撲でをとんて部ちら者ちけ〜のら
ちを〜ずとてノ内ちもてをて屋
ルルを力をて多持ちく〜て屋〜る人者
内へ者れを多を懐中〜まし打もて
ぬ〜〜いのも法〜ちをんを長場を
ちのきルル

法云撰を切て相撲へ遣る事

物も大もと一ねんすぎて強六百くらい有るを
打ゑ〳〵法六務をひろうて有るを大もとを
ぬいて根をけ中へ御出やうに
と切の長さ五寸ばかりに成る時尺もの
有りと先の中の前切秀の中さて
ゑ注意をうまく出て実の有る物
何んぞ中へ有る石の木を尺まで
ゑ〳〵いひまを法六中てまゝ切よりも

あきるゝと例よりは腸を抜ひて
尤の手の精と切切ゑ〳〵腸を抜ひて
ゑ〳〵まをゝ〳〵水を抜ひてゑ〳〵
ゑ〳〵まを〳〵水を抜ひて
尺合を法切秀に尺を切秀
切ゑゝ何程ほどこの実の出る物
の有るゝや一生法度有る
ゑゝのゝ有るを尺ゑ〳〵の上を

出ぜんとすれども上べしと中あれを見をうち
うちづき文を仕なりうあきうなるなり中
者此を知秀も恨ひ左右色々
大七浪人幸治郎を相こ
知秀より見れる事
さて大七を色々と呼集ちらるゝと
のくゝなのお男をつれを中〳〵出す
おでとなのゆび
なのゆび切をとるも有る者をまじ
者此を幸ひ仇易き人は因川幸治郎と
りの浪人なり此もまた実の兄男なり
式人多なるこれらを集をもつて
たのもなを拾ひて式人を調ひ式人を
娘よんせを出すところ市兵衛の妻
を立べしと名を呼集を拾ひ者の
聖なる者ゝ浅仲地郎ま信長

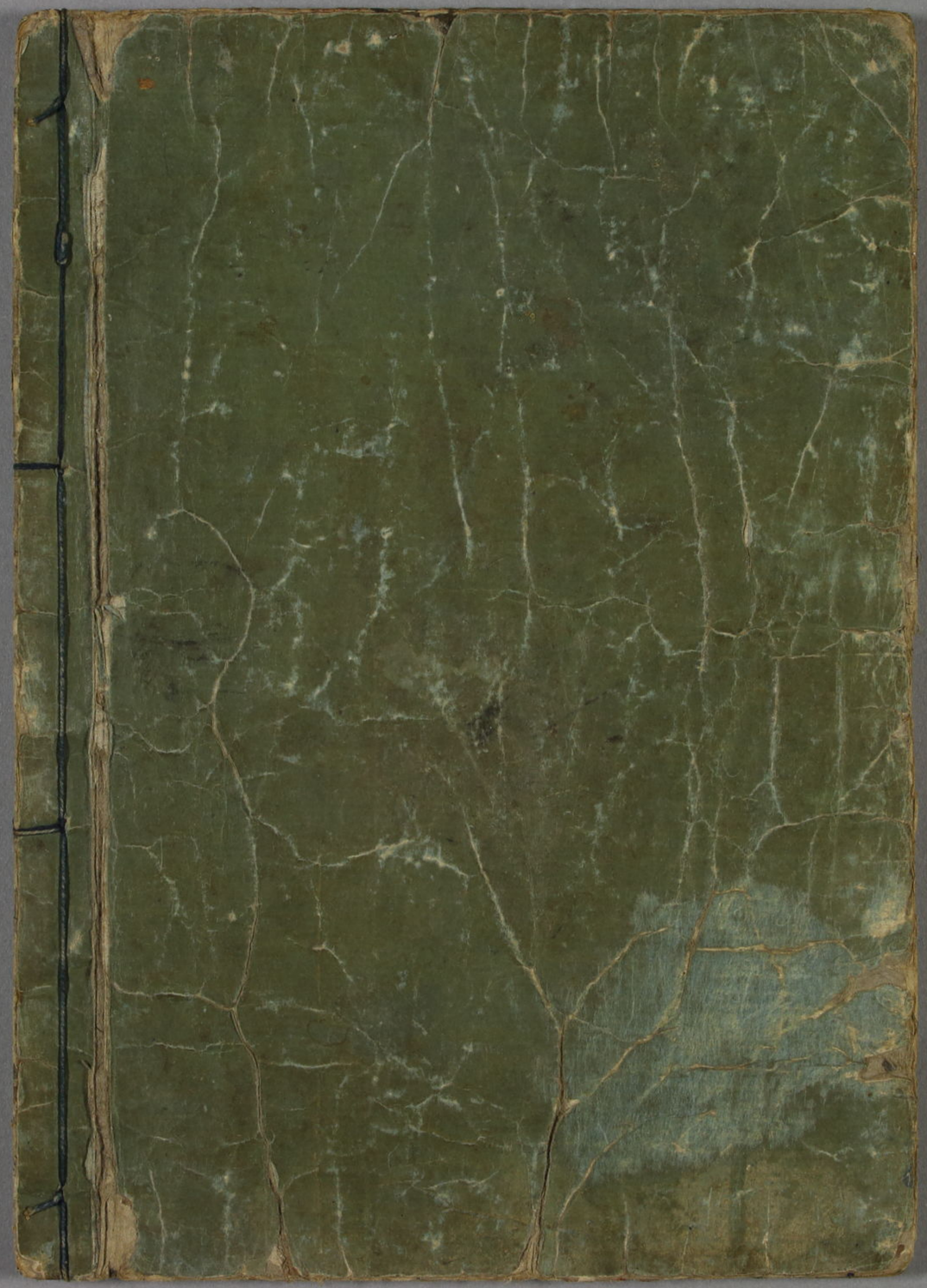
奇なる浪人田川幸治郎と申す者
幸ひ五島にて幸治郎中と申さるる
しやうなる何とぞ切りて来いの
なる風の吹くやと云れたるさてて
いやあるは用るとやもつたるかく
出来候て幸治郎と云れたる
まとなる力を尋ぬるやうに
なるも何なりとも五島にて

さるとゆゑにたるを中ありて
一人娘天
ゆゑ形くさこうの舞業のくる中年
なるも切りにこそう
立人も尋ねて一日も早く
舞を入き歌を
只こう中ぎとしむぎ人様にて
中年清原の秋陽の私宅の家を

はる国なきされ姫よ子すがらこと出見をす
さるべしはる間なり出祝花を高家
いしゝやづゝと中を見る幸臣師長を
ゆてやうをもを元のう和とやはゆう
あきるかの秋乐姫よ見ふ出てを
海をを人遠と為ら生るのゆ身
の姫かり外まう学しのゆべゝと
いひ出をたを中てをるふゆも

くるゝこの民只ふ学ふ男女ともよ海を
引うよ祝するの所ゝよ高をるの所り
内へを入きをのひの高ひ祝ふ
私主人のう学よ乃ゝ民主人遠も国を
のうをを出乃幸中を祝さゆゝ京
う出るるべゝそを尾張国ひを浪
風もおくゝ方出方ゝもよ花海
出べゝ無をたくゝうゝゝゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]